

装備の知識について

アウトター・リヤ・ビュー・ミラー

エンジン・フード

ヘッド・ランプ



ドア・アウトサイド・ハンドル

サイド・ターン・シグナル&
ハザード・ウォーニング・ランプ

フロント・ターン・シグナル&
ハザード・ウォーニング・ランプ

クリアランス& パーキング・ランプ

バック・ドア

ターン・シグナル&
ハザード・ウォーニング・ランプ

パーキング・ランプ

テール&ストップ・ランプ

バック・アップ・ランプ

ライセンス・プレート・ランプ



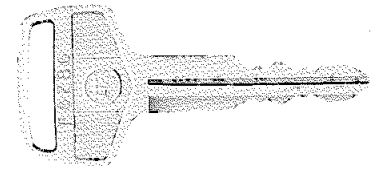
反射器

コロナ マークII バン デラックス

ご乗車の前に——

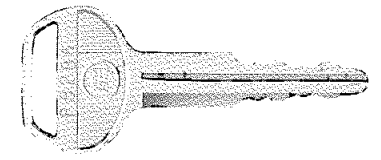
■キーを確認しましょう

マスター・キー



(すべてのキー・シリンダーに使用)

サブ・キー



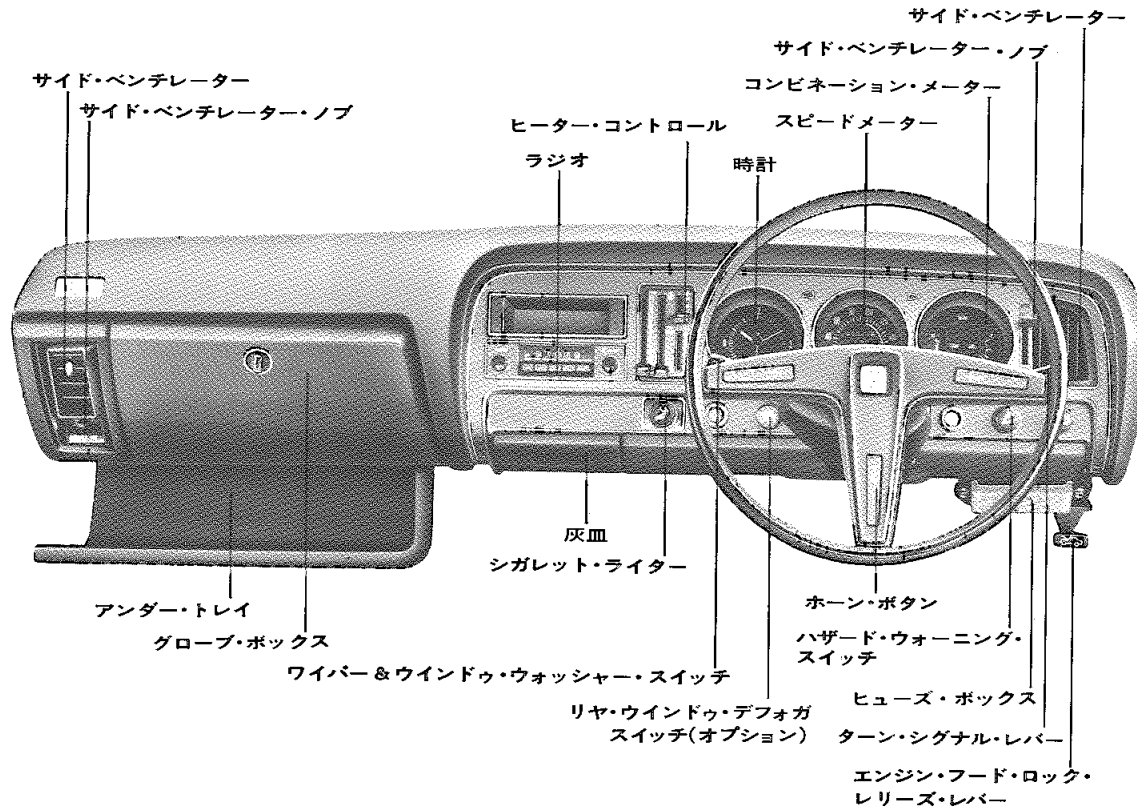
(グローブ・ボックス以外のキー・シリンダーに使用)

サブ・キーはグローブ・ボックスに貴重品を入れたままキーをつけて車を預けるときなどにお使いください。

注意

キー・ナンバーをひかえておきましょう。万一、キーを紛失された場合でも取扱店にお知らせいただければ、スペア・キーを作ることができます。

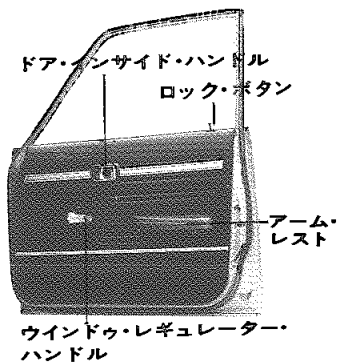
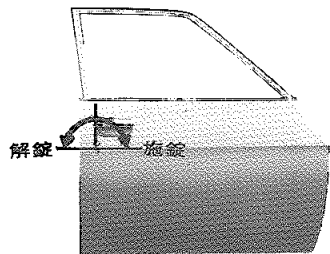
無断複製禁止



コロナ マークII バン デラックス

⑩ = 装備の知識について

■ ドアについて



ドアを開けるときは

車外から……ドア・アウトサイド・ハンドルを持ち上げます。

車内から……ドア・インサイド・レバーを手前にひきます。

★注意

必ず後方確認をしましょう。いきなりあけると後続車がぶつかる恐れがあります。

ドアを閉じるときは

確実にしめましょう。

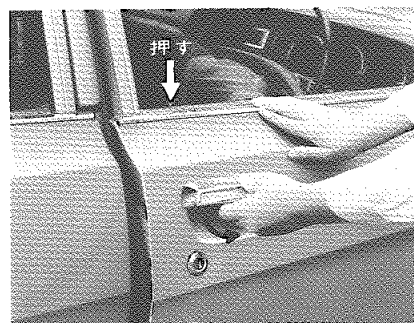
★注意

半ドアの状態では、運転中ドアが開く恐れがあります。

ドアをロックするときは

車外から……

〈フロント・ドア〉



ロック・ボタンを押えドア・アウトサイド・ハンドルの内側をひき上げたままドアを閉めます。

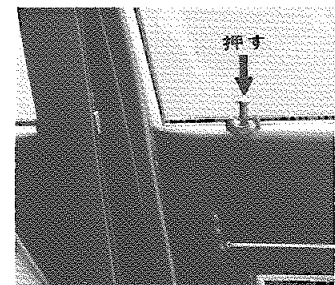
★注意

キーを車内に置き忘れないようにしましょう。

車内から……

ドア・ロック・ボタンを押えます。

〈リヤ・ドア〉



ロック・ボタンを押え、そのままドアをしめます。

■ バック・ドア



プッシュ・ボタンを押して、バック・ドアを持ち上げて開きます。

バック・ドアを開くとバック・ドア・ランプがつきます。

閉じるときは、バック・ドアをそのまま下までおろし、上から手で押しあてつけます。

■ エンジン・フード



①計器盤下のノブを引きます。

ロックがはずれ、セーフティ・ラッチがかかった状態になります。



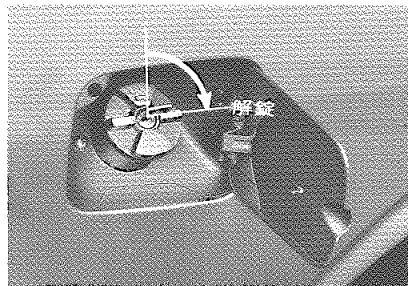
②エンジン・フードのすき間に手を入れてセーフティ・ラッチをはずしエンジン・フードをいっぱい開けます。

③閉じるときは、フードをさげて前端を押しつければロックします。

★注意

フードが半ロックの状態では走行しないでください。

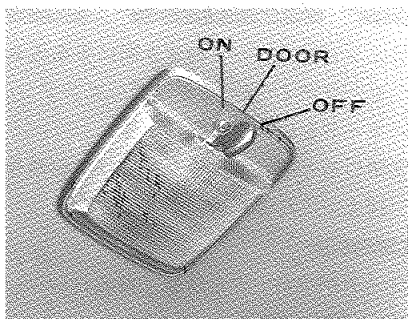
■ガソリンの補給



キャップにはロックがついています。キーをOFFにしてから取りはずします。
(除くスタンダード車)

ガソリンはレギュラー(無鉛)・ガソリンをお使いください。

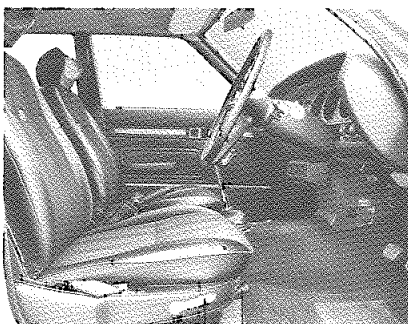
■ルーム・ランプとドアの関係は



ルーム・ランプ・スイッチは3段になっています。

O N……ドアの開閉に関係なく点灯
DOOR……ドアを開いたときのみ点灯
OFF……ドアの開閉に関係なく消灯

シートについて



リクライニング・アジャスト・レバー
シート・アジャスト・レバー

■フロント・シートの位置を調整 しましょう。

シートの位置調整は、正しいドライビング・ポジションで運転するために必要なことです。
ペダルを十分に踏むことができ、ゆとりのある位置に調整しましょう。

前後位置調整

シート下のレバーを外側に押ししている間、前後に移動できます。

調整後は、シートがロックされたことを確認しましょう。

リクライニング調整

シート横のレバーを引き上げると、シート・バックの角度が調整できます。

●注意

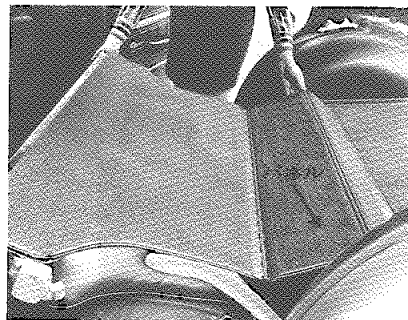
シートの位置調整は、車を運転する前に行なってください。車が動いているときの調整は運転姿勢がくずれ危険です。

■リヤ・シート

ワゴン車
バンのコラムシフト車

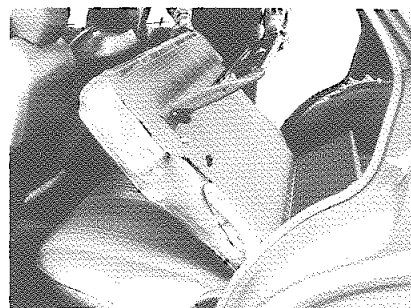


シート・バックは前に倒すことができます。
リヤ・ロック・レバーを前にいっぱい引き、シート・バックを前に倒します。
シート・バックを起すときは、中央のパネルを持ち上げて起こします。



シート・バックを後に押さえつけると自動的に固定されます。

バンのフロアシフト車



リヤ・シート・バックを倒すときは、シート・バックの裏のハンドルを引き上げてから前に倒します。

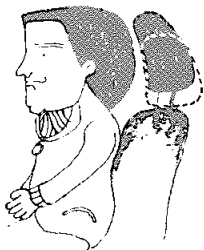
中央部のパネルを押さえつけ固定し、つぎにハンドルをいっぱい起してください。
シート・バックを起すときは、まず中央部のパネルを起してからシート・バックを起します。

シート・バックをいっぱい起してから、ハンドルを倒し、シート・バックを押さえつけて固定します。

●注意

シート・バックを起すとき、先にハンドルを倒すとシート・バックが起き、あと固定することができません。

■ヘッド・レストを正しい位置に前に押しして高さを2段に調整できます。上の位置で使用してください。ヘッド・レストの正しい位置



■シート・ベルトを忘れずに

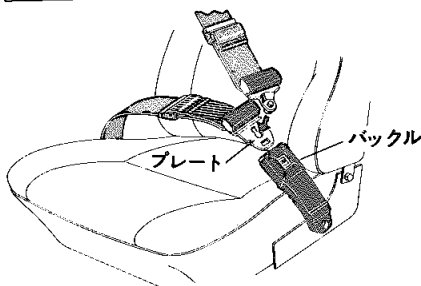
運転するときは、必ずシート・ベルトをしましょう。ベルトはいつも清潔にしておきましょう。

また破れがないか点検をしましょう。なお、汚れを落とすには、中性洗剤でブラッシングして布でふきとってください。フロント・シート用は標準装備、リア・シート用はオプションです。

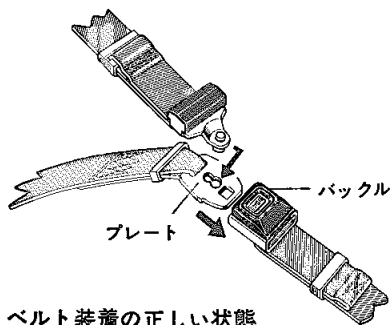
装着方法

1. シートを運転しやすい位置に調節し腰ベルトをいっぱい引き出し、ねじれていないことを確認します。
2. 肩ベルトを、少し長目に調節して、ねじれていないことを確認してプレートにはめます。
3. 2.でセットしたプレートをバックルにはめ、腰ベルトを体に合うように調節してください。

セパレート・シート用



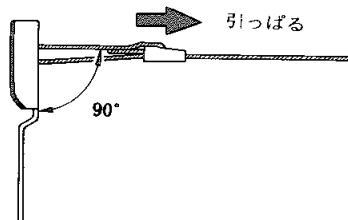
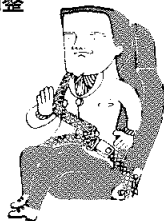
ベンチ・シート用



ベルト装着の正しい状態



ベルトの調整



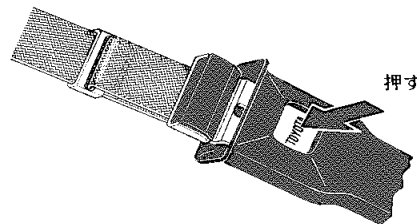
リトラクタからいっぱい引き出し、運転操作の妨げにならない長さに調整します。ベルトをひき出すときは、リトラクタから直角に引き出してください。

胸とベルトとの間は、にぎりこぶしがはいる位の余裕があるように調整します。

★注意★

1. 1本のベルトを2人で使用することは、やめてください。
2. お子様を使用することはやめてください。

取りはずし



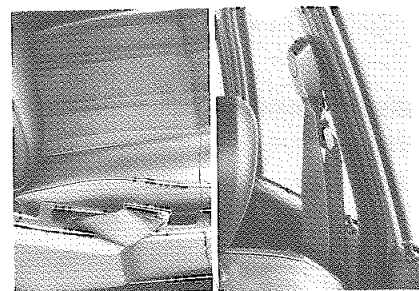
腰ベルトは、バックルをドア側に向けてすこし引き上げるとゆっくりまきもどされます。また、短時間車から離れ、再び運転をするときは肩ベルトはバックル・プレートに取り付けたままにしておいても差つかえありません。

格納方法

空席のベルトは図のように格納しましょう。

〈腰ベルト〉

〈肩ベルト〉



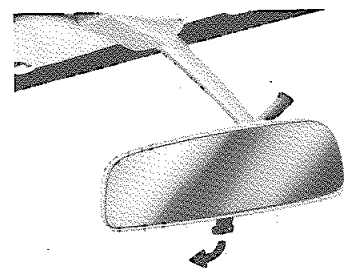
■ミラーの調整をしましょう。

インナー・リヤ・ビュー・ミラー
アウター・リヤ・ビュー・ミラー

後方視野が十分に確認できる位置に調整しましょう。

防眩式インナー・リヤ・ビュー・ミラー

デラックス車以上



夜間走行の場合、後続車のライトがインナー・ミラーに写り、まぶしいときに使用します。

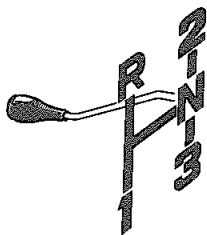
ミラーの下にあるレバーを手前にひくと後続車のライトの反射が弱くなり、後続車が確認しやすくなります。

防眩が必要なくなったときは、レバーを押してもとの位置にします。

シフト・レバーについて

■マニュアル・トランスミッション

3速コラム・シフト



4速フロア・シフト



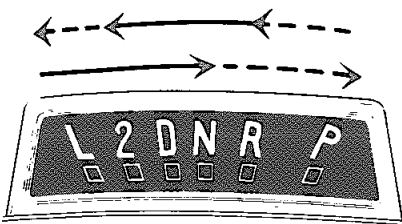
5速フロア・シフト



■オートマチック・トランスミッション

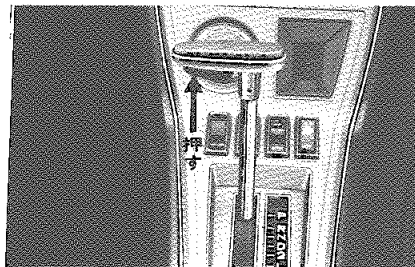
〈各レンジへの入れ方〉

3速コラム・シフト

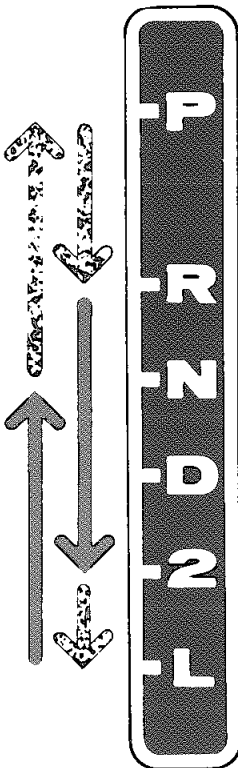


- そのまま動かします。
- - -> 手前に引いてシフトします。

3速フロア・シフト



- そのまま動かします。
- ⇩ コントロール・レバー・ボタンを押して動かします。



- Ⓐ パーキング・レンジ……駐車するときとエンジンを始動する位置
- Ⓑ リバース・レンジ……車をバックさせるときの位置
- Ⓒ ニュートラル・レンジ…エンジンを始動させる位置
- Ⓓ ドライブ・レンジ……通常走行する位置
- ② セカンド・レンジ……エンジン・ブレーキが必要などときに使う位置
- ① ロー・レンジ……強いエンジン・ブレーキが必要などときに使う位置

〈運転のしかた〉

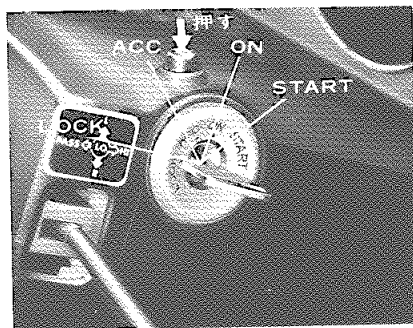
- 通常は①で発進するとロー・ギヤからスピードによりセカンド・ギヤに、トップ・ギヤにと自動的にかわります。
- マニュアル・トランスミッション車と同様に、①から発進し、②から①へと手動の操作でも運転できます。
- 急坂路をくだるときは、スピードに応じて①または②に入れて、エンジン・ブレーキをかけます。
- 追い越しなどで急加速をしたいときは、アクセル・ペダルをいっぱい踏み込むと、レバーは①でも、ギヤはトップからセカンドまたはロー・ギヤに切り換って急加速ができます。
(キック・ダウン操作)

★注意

1. エンジンを始動するときは、必ずパーキング・ブレーキを引きⒸまたはⒶにしてください。
2. ⒶとⒷは、必ず車が完全に止まってから、入れてください。
3. 停車中ⒸまたはⒶ以外ではエンジンを高回転にしないでください。
4. アクセル・ペダルを踏み込んだまま、Ⓒから①またはⒷへ切り換えることは危険です。必ずペダルを離してから①またはⒷへ切り換えてください。

エンジン始動について

■エンジン・スイッチ



LOCK…キーを抜き差しできる位置。

キーを抜くとハンドルがロックされ盗難防止に役立ちます。

ACC……エンジンを止めたまま、ラジオおよびカー・ステレオの聞ける位置。

ON……エンジン運転中の位置。

START…エンジンを始動する位置。

手を離せば自動的にONにもどります。

ロック

キーをACCからLOCKの位置にするときは、プッシュ・ボタンを押さえて回します。

アン・ロック

キーがLOCKからACCにまわらないときは、ハンドルを軽く左右にまわしながらエンジン・キーをACCの方向にまわすとはずれます。

注意事項

1. エンジン停止時、スイッチはLOCK またはACCの位置にしておきましょう。長時間停止するときはLOCKの位置にしてください。
ONの位置で放置するとバッテリーあがりの原因になります。
2. エンジンがかからないとき、無理にそのままSTARTの位置で長時間回さないでください。
バッテリーがあがります。
3. エンジンを止めてラジオまたはカー・ステレオを長時間つけておくとバッテリーあがりの原因になります。
4. エンジンがかかっているとき、キーをSTARTの位置に回さないようにしましょう。スターターが無理にかみあい破損します。
5. 走行中はキーを絶対にLOCKの位置まで回さないでください。
ハンドルがきれなくなり危険です。

■チョーク

オートマチック・チョーク付車は寒冷時、エンジンを始動するときに、自動的にチョークがはたらいで、始動を容易にするようになっています。

オートマチック・チョーク

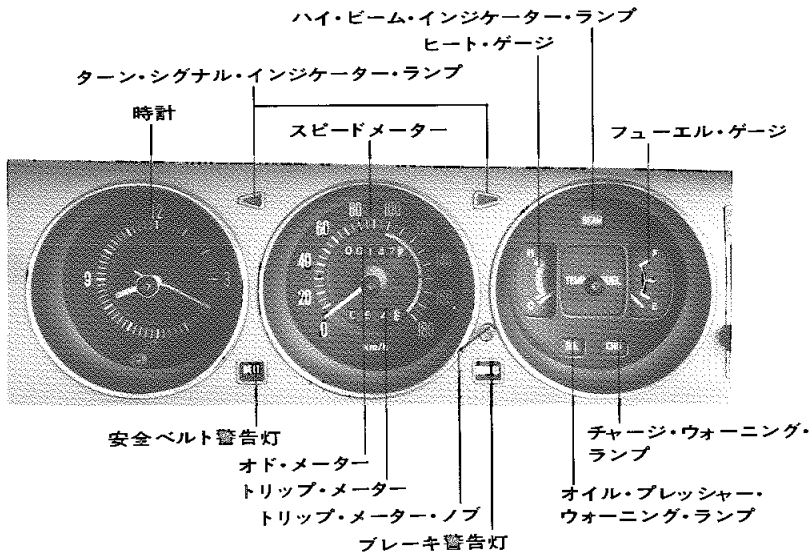
- ①エンジンを始動する前にアクセル・ペダルを次のように踏み込みます。

外気温	踏む回数
+5℃以上	軽く1回
+5℃～-10℃	いっぱい1～2回
-10℃以下	いっぱい2～3回

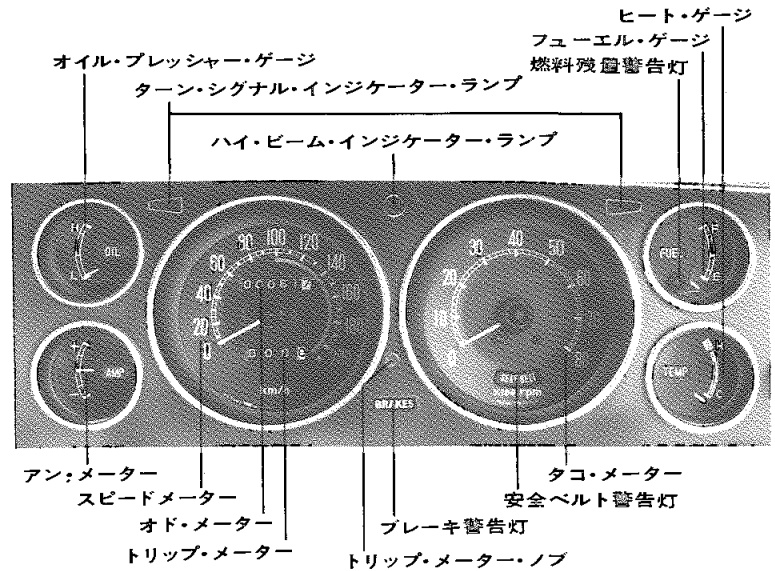
- ②アクセル・ペダルから足を離しエンジンを始動します。
- ③しばらく暖機運転をします。
オートマチック・チョークが働いている間は、アイドリング回転数は通常より高くなっているのでアクセル・ペダルを踏んでいる必要はありません。
- ④エンジンを暖まってから再びアクセル・ペダルを踏み込んでから離します。
アクセル・ペダルを踏み込むと、チョークがもどりアイドリング回転になります。

スイッチ, メーター について

3眼メーター付車



6眼メーター付車



■スピード・メーター〈速度計〉

指針は車の走っているスピードを示し、約100km/h以上になると、チャイムが鳴り警告します。チャイムが鳴っているとき、指針が振れることがあります、異常ではありません。

■オド・メーター〈積算距離計〉

走行した総距離をkmの単位で表わします。白地に黒文字は、100mの単位です。

■トリップ・メーター〈総積算距離計〉

オド・メーターと共に走行した距離を表示します。ある区間または期間に走行する距離を知りたいとき0にもどして使用します。0にもどすときは、トリップ・メーター・ノブを押せば0にもどります。

■タコ・メーター〈エンジン回転計〉

6眼メーター付車

エンジン回転数を示します。赤色の部分をレッド・ゾーンといい指針がレッド・ゾーンにあるときは、エンジンがオーバーランをしていることを示します。

指針がレッド・ゾーンにはいらないようにしてください。

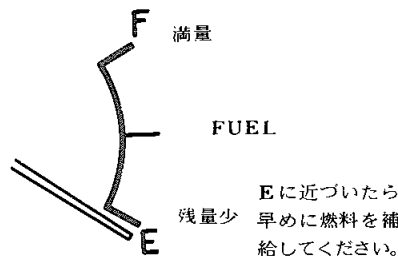
レッド・ゾーン

6,000回転以上

■フューエル・ゲージ〈燃料計〉

エンジン・スイッチがONのときにフューエル・タンク内の燃料の量を示します。

エンジン・スイッチがON以外では、指針はEより下の位置にあります。



■フューエル・ウォーニング・ランプ

〈燃料残量警告灯〉 6眼メーター付車

エンジン・スイッチがONのときフューエル・タンク内の残量が10ℓ以下になると点灯し警告します。

■チャージ・ウォーニング・ランプ

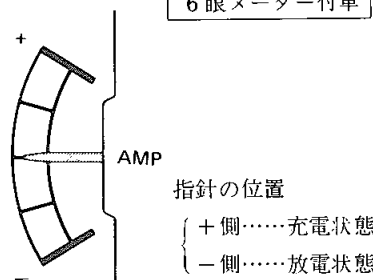
〈充電警告灯〉

エンジン回転中、充電系統が異常のときに点灯し(赤色)警告します。

ただし、エンジン停止中にエンジン・スイッチをONにすると点灯し、始動すると消灯します。

■アン・メーター〈電流計〉

6眼メーター付車



エンジン始動後、指針は⊕側に一時大きく振れますがその後除々にもどり、わずかに⊕側を指示する状態で静止すれば正常です。

エンジン始動後も⊖側を指すときは、フォグ・ランプなどの電気の使いすぎか、充電系統の故障が考えられます。ヘッドランプ、フォグ・ランプなどを消してもなお⊖側を指すときは点検が必要です。

■オイル・プレッシャー・ウォーニング・ランプ

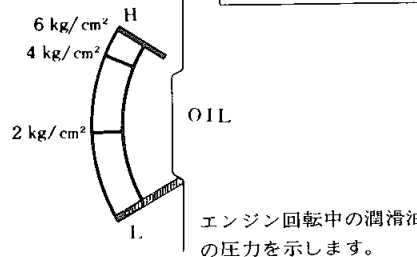
〈油圧警告灯〉

エンジン回転中、潤滑系統が異常の時に点灯(赤色)し警告します。点灯したままのときはオイル量を調べてください。

ただし、エンジン停止中にエンジン・スイッチをONにすると点灯し、始動すると消灯します。

■オイル・プレッシャー・ゲージ〈油圧計〉

6眼メーター付車



エンジン回転数を上げても指針が動かないときは潤滑系統に異常がありますので、エンジンをただちに止めて、オイル量を点検してください。オイル量が正規であれば、他のところで故障があります。

■ヒート・ゲージ〈水温計〉

エンジン・スイッチがONのときに冷却水温を示します。

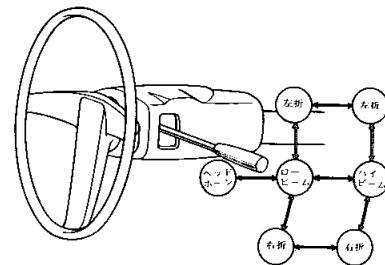
エンジン・スイッチがON以外では、指針はCより下の位置にあります。

指針がレッド・ゾーンを示すときは、冷却水の有無、漏れおよび、ファン・ベルトのゆるみ等について点検してください。イエロー・ゾーンまでは走行してさしつかえありません。

■ターン・シグナル・インジケーター・ランプ

右折または左折のとき、それぞれのターン・シグナル・インジケーター・ランプが点滅(緑色)します。

■ターン・シグナル・レバー



ターン・シグナル・スイッチとして……

右左折のとき上図のように操作します。操作した側のターン・シグナル・ランプが点滅するとともにターン・シグナル・インジケーター・ランプが点滅します。ハンドルをもとにもどすとレバーは自動

的にもどります。ハンドル操作が少ないときスイッチが自動的にもどらない場合があります。このときは手でもどしてください。

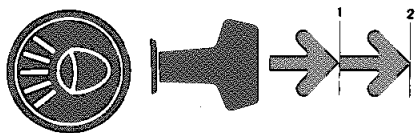
ヘッドランプ・ホーン・スイッチとして……
レバーをロー・ビームの位置から手前に引いている間ヘッドランプのハイ・ビームが点灯します。

高速道路で先行車を追い越すときなどの合図として使います。

ディマー・スイッチとして……

ハイ・ビームとロー・ビームの切り換えをします。夜間先行車や対向車のあるときはロー・ビームにしてください。

■**ライト・コントロール・スイッチ**



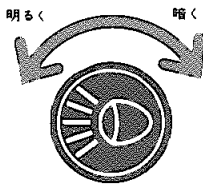
エンジン・スイッチに関係なくランプがつきます。

①および②の位置でそれぞれ次の○印のランプが点灯します。

灯 火 名	①	②
ヘッドランプ	○	○
クリアランス・ランプ、テール・ランプ	○	○
ライセンス・プレート・ランプ	○	○
メーター・パイロット・ランプ	○	○

メーター・パイロット・ランプの明るさ調整

L 車



ライト・コントロール・スイッチを左右にまわすと、メーター・パイロット・ランプの明るさがかわります。

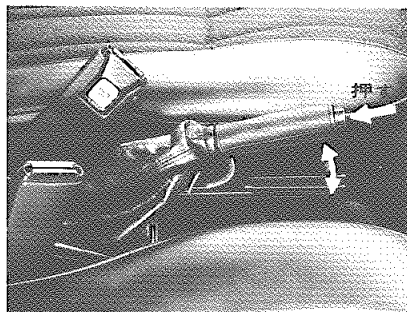
周囲の明るさに応じて調整してください。

■**ハイ・ビーム・インジケータ・ランプ**

ヘッドランプがハイ・ビームのとき、ハイ・ビーム・インジケータ・ランプが点灯(青色)します。

■**パーキング・ブレーキ・レバー**

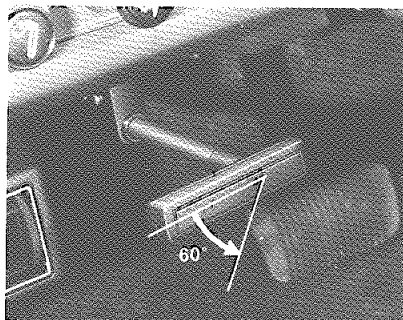
フロア・シフト車



駐車時、いっぱい引いて使用します。

もどすときは、レバーをかるく引きあげながらレバー先端のノブを押さえてもどします。

コラム・シフト車



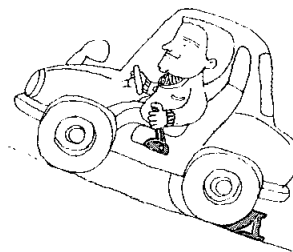
駐車時いっぱい引いて使用します。

もどすときは下に約60°まわしてもどします。

坂路での駐車は……

マニュアル・トランスミッション車の場合
パーキング・ブレーキを引いた上、ギヤをローまたはリバースに入れ、さらに上り坂では後輪に、下り坂では前輪に輪止めをします。

オートマチック・トランスミッション車
パーキング・ブレーキ・レバーを引いた上、シフト・レバーをパーキング・レンジに入れ、さらに輪止めをすると安全です。



■**ワイパー & ウォッシャー・スイッチ**
エンジン・スイッチがONのときに作動します。

ワイパー・スイッチ

コラム・シフト車は……

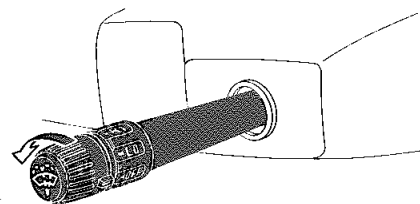


1……低速 普通雨量のとき

2……高速 雨量の多いとき

スイッチを切ると、ワイパーは動き始める位置までもどって止まります。

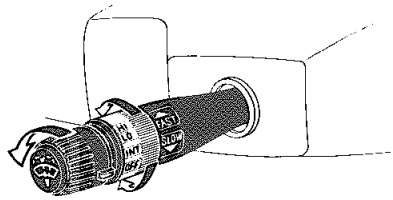
フロア・シフト車は… L車除く全車



L O……低速 普通雨量のとき

H I……高速 雨量の多いとき

L 車



INT……4～12秒おきにワイパーが1回作動します。

雨雪量の少ないときに使用してください。

スピード調整つまみで、ワイパー停止時間を4(ファスト)～12秒(スロー)まで調節することができます。

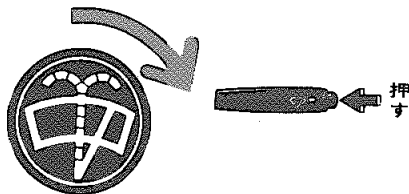
LO……低速 普通雨量のとき

HI……高速 雨量の多いとき

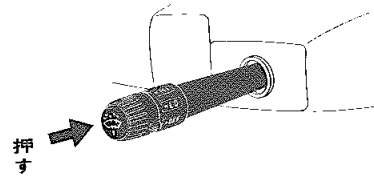
スイッチを切ると、ワイパーは動き始めの位置までもどって止まります。

ウォッシャー・スイッチ

コラム・シフト車



フロア・シフト車



ウインドウ・ウォッシャーはワイパーと連動式になっています。

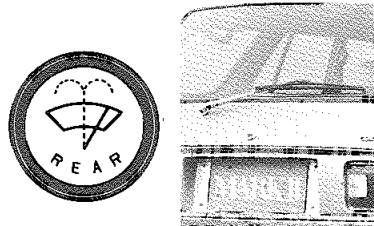
凶にしたがってウォッシャー液を噴射すると、同時にワイパーが数回作動し止まります。ウインドウ・ガラスがよごれているときに使用します。

【重要】

1. 汚れたまま使用するとガラスに傷がつきます。
ウインドウ・ガラスが汚れているときは、ウォッシャー液噴射後ワイパー・スイッチを入れてください。
2. ウインドウ・ウォッシャー液がカラのときは、スイッチをまわさないでください。まわすとポンプをいためる恐れがあります。

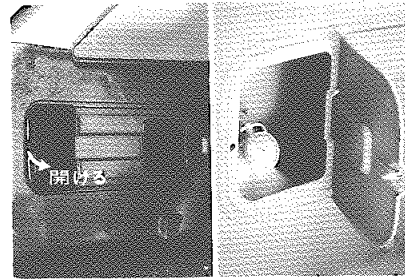
リヤ・ワイパー

L車標準
その他オプション



スイッチを切ると、ワイパーは動き始めの位置までもどって止まります。

ウォッシャー・タンクの位置

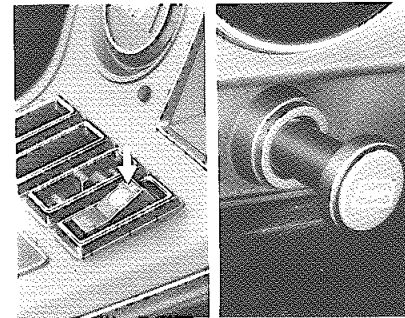


スイッチを右にまわすと、ウォッシャー液が噴射されます。

■リヤ・ウインドウ・デフォガ・スイッチ

ワゴン車標準
バンDX車オプション

フロア・シフト車 コラム・シフト車



リヤ・ウインドウが曇ったとき、ガラスの表面を暖めて、曇りをとります。スイッチをONにすると、スイッチ内部の照明ランプが点灯し、作動していることを示します。

★注意

デフォガは消費電力が大きいので、リヤ・ウインドウの曇りが消えたらスイッチを切ってください。

スイッチを入れっ放しにしておくと、バッテリーあがりの原因になりますのでご注意ください。室内の曇りを取るもので、雪をとかす能力はありませんので必要以上に使用しないでください。

■ブレーキ警告灯

エンジン・スイッチがONのときパーキング・ブレーキ・レバーを引くと点灯(赤色)レバーをもどすと消えます。

そのままの状態、ブレーキ・ペダルを踏むとブレーキ配管系統に異常がなければ、ランプが消灯します。

■安全ベルト警告灯

パーキング・ブレーキ・レバーを引いた状態で、エンジン・スイッチをONにすると点灯(赤色)し、セーフティ・ベルトを装着すると消灯します。

■残光式ヘッドランプ

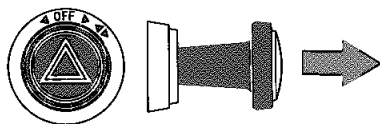
L 車

ヘッドランプを消したあと、ドアをあけてから、ターン・シグナル・レバーをヘッドランプ・ホーン的位置にすると、ヘッドランプが約20秒間点灯して消えます。夜間の車庫入れ後の足もとの照明などにご使用ください。

残光式ヘッドランプの操作をした後、すぐ消灯したい場合は、ライトコントロール・スイッチを引き出して、またすぐ押しこめばヘッドランプは消灯します。

■ハザード・ウォーニング&パーキング・スイッチ

ハザード・ウォーニング・スイッチとして



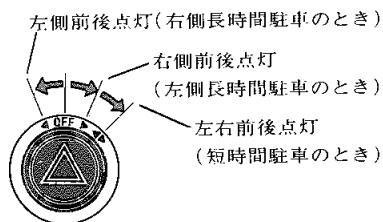
故障して、路上駐車するとき他車の追突防止のため使用します。スイッチを引くと、前後左右のターン・シグナル・ランプとともに、ターン・シグナル・インジケータ・ランプが点滅し、駐車していることを知らせます。

▶注意▶

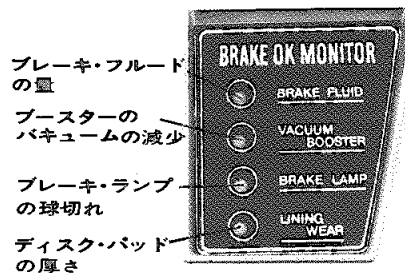
ハザード・ウォーニング・スイッチは非常の場合以外は使わないようにしましょう。走行中、トンネル内などで使用すると他車の誤解をまねき危険です。

■パーキング・スイッチとして

夜間路上駐車時使用します。



■ブレーキ・OKモニター L 車



1. エンジン停止中にエンジン・スイッチをONにすると4個の発光素子が点灯します。発光素子の点灯はエンジン始動後、数秒間続きその後消灯します。
2. エンジン回転中に検知個所に異常があれば、該当個所の発光素子が点滅し同時に警告音が異常を知らせます。異常個所が発見されたら、ただちに車を止めて最寄りの取扱販売店へ連絡しましょう。

▶注意▶

ブレーキ・OKモニターだけで仕業点検を済ませず、お出かけ前の点検はエンジン・フードを開けて行ってください。

■時計

時刻調整は、つまみを手前に引いたまま回して行ないます。

ラジオ, ステレオ

■ラジオ

ラジオは、エンジン・スイッチをONかACCにして、電源スイッチを押しONにして使用します。

■アンテナ L車除く全車

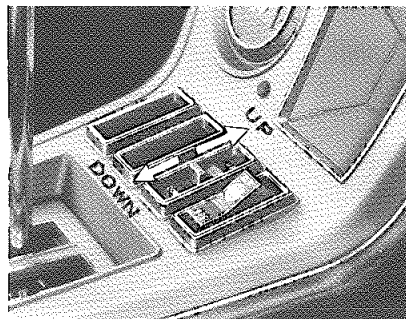
電源が入ると同時にアンテナが1段とび出します。

アンテナをさらにのばしたいときは、手でひっぱり出します。

アンテナはいっぱい押し込むとロックされるので次に使用するときは、再びラジオの電源スイッチをONにします。

アンテナはいっぱい伸ばしてお使いください。

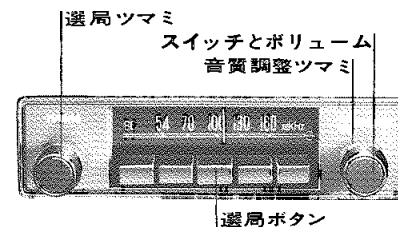
■モーター・アンテナ L 車



スイッチを前側に押すとアンテナは自動的に上がります。後側に押すとアンテナは下がります。

AMプッシュ式

デラックス車標準
スタンダード車オプション



〈選局ボタンのセットのしかた〉

1. ボタンの1つをいっぱい引き出します。
2. 左側選局つまみ (TUNLNG) で望みの局に合わせます。
3. 引き出したボタンをいっぱい押し込みます。
4. 他のボタンも同じ方法でそれぞれの局にセットできます。

放送局の違う地域へ行ったなら選局しなおしてください。

〈選局つまみ〉

選局ボタンでセットした局以外の放送局を選ぶときは左側の選局つまみで合わせてください。

〈音量調整〉

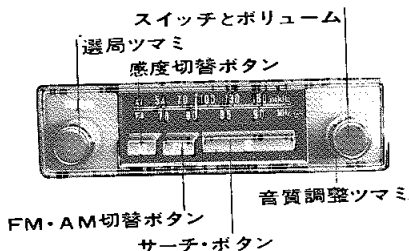
音量調整つまみ (VOLUME) をまわしてお好みの音量に調整してください。

〈音質調整〉

音質調整つまみ (TONE) をまわしてお好みの音質に調整してください。

AM・FMサーチ・チューナー式

L車標準
ワゴンDX車オプション



音量調整・音質調整は、プッシュ・ボタン式と同じ取り扱いです。

〈選局のしかた〉

サーチ・ボタンを押すと、指針が自動的に移動し次に受信できる局で止まります。

〈感度の切替え〉

山間部などの電波の弱い地域や、遠くの放送電波をキャッチしたいときに、感度切替ボタンを押し込んでください。

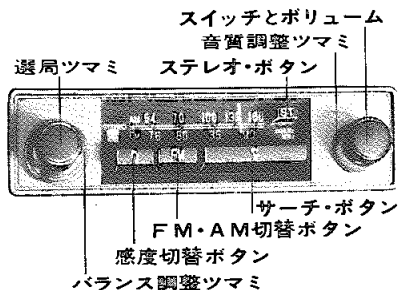
もう一度ボタンを押すともとの位置にもどり、近距離の局のみ選局できます。

〈FMボタンのセットのしかた〉

FMボタンを押し込むとFM放送が受信できます。FMボタンをもう一度押しとボタンの位置がもとにもどりAM放送受信状態となります。

AM・FMマルチ・ステレオ式

全車オプション



選局のしかた、FMボタンのセットのしかた、感度の切替え、音量調整、音質調整、ともにAM・FMサーチ・チューナー式と同じです。

〈マルチ・ステレオのセットのしかた〉

FM放送受信中にステレオ・ボタンを押すとFMステレオ放送を受信できます。ステレオ受信中にはステレオ・インジケータ・ランプが点灯します。

もう一度ステレオ・ボタンを押すとボタンは戻りFMモノラル放送にかわります。

〈バランス調整〉

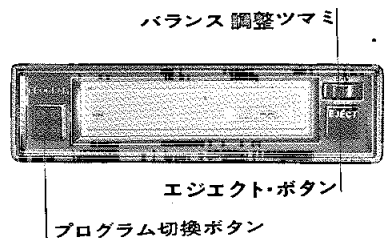
バランス調整ツマミをまわすと、音が左右に移ります。

もつともステレオ感のもりあがる位置にツマミをまわしてください。

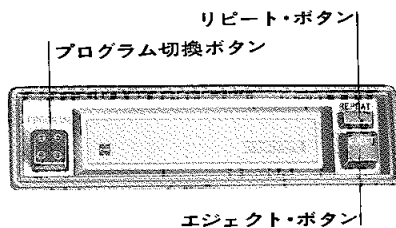
■ステレオ

ステレオは、エンジン・スイッチがONかACCのときに聞くことができます。

カートリッジ・ステレオ 全車オプション



マルチ・ステレオ式
ラジオ付車オプション



エンジン・スイッチがONまたはACCのとき使用できます。

カートリッジ・テープをまっすぐ差しこむと、自動的にチャンネル・インジケータ・ランプが付き演奏が始まります。

〈バランス調整〉

バランス調整ツマミをまわすと、音が左右に移動します。

もつともステレオ感のもりあがる位置にこのツマミを調整してください。

マルチ・ステレオ式ラジオ付車オプション仕様のはラジオのバランス調整ツマミで調整してください。

〈音量調整〉

ラジオの音量調整ツマミ(VOLUME)をまわして適当な音量に調整してください。

〈音質調整〉

ラジオの音質調整ツマミ(TONE)をまわしてお好みの音質に調整してください。

〈プログラム切換〉

演奏中、プログラム切換ボタンを押すと他のプログラムに切り換えることができます。

1つのプログラムの演奏が終わると自動的に次のプログラムに切り換わります。

マルチ・ステレオ式ラジオ付車オプション仕様のはリピート・ボタンを押すとプログラムをくりかえすことができます。

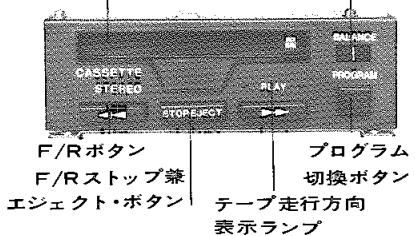


1. テープの保存はテープが露出しないようにケースに入れ直射日光をさけて保存してください。
2. テープを演奏状態のままエンジン・キーを切らないでください。回転むらや、テープの巻き込みの原因になります。

カセット・ステレオ 全車オプション

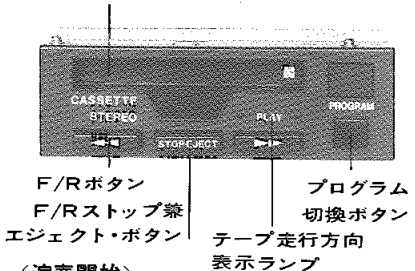
カセット・テープ・差込口

バランス調整ツマミ



マルチ・ステレオ式
ラジオ付車オプション

カセット・テープ・差込口



〈演奏開始〉

カセット・テープを差込口にまっすぐ“ロック”されるところまで差込んでください。自動的にテープ走行方向表示ランプ(PLAY)が点灯し、演奏が始まります。このとき、ラジオの電源スイッチのON、OFFに関係なく自動的に演奏が始まります。

〈音量、音質調整〉

ラジオの音量(VOLUME)、音質調整ツマミ(TONE)で調整してください。

〈バランス調整〉

バランス調整ツマミをまわすと、音が左右に移動します。

もっともステレオ感のもりあがる位置にこのツマミを調整してください。マルチ・ステレオ式ラジオ付車オプション仕様のはラジオのバランス調整ツマミで調節してください。

〈プログラム切換〉

プログラム切り換えボタンを押すと、プレイ方向表示ランプが切り換わり、テープ走行方向の切り換えができ、お好みのプログラムが選べます。

オート・リバース

テープ演奏が終ると自動的にプログラムが切り換ります。

〈早送り(F.F)、巻き戻し(REW)〉

F/Rボタンを押すとテープの早送り、または巻戻しができます。

プレイ走行方向表示ランプの点灯は、テープ走行の方向を表わしています。プレイランプの点灯している方向と同じ矢印表示のF/Rボタンを押すと早送り、逆方向の矢印表示のF/Rボタンを押すとテープの巻戻しができます。

〈早送り(F.F)、巻戻し(REW)の解除〉

エジェクト兼F/Rストップ・ボタンを軽く押すとテープの早送り、巻戻しを解除することができます。

〈演奏停止〉

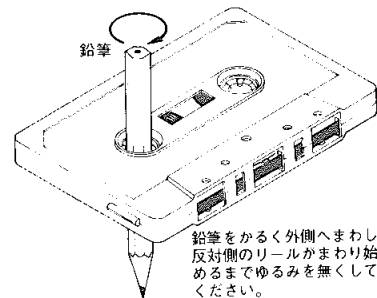
演奏を停止させテープを取り出したいときは、F/Rストップ兼エジェクト・ボタン

を強く押し込んでください。

カセット・テープが差込口に押し出され同時にテープ・プレーヤの電源もOFFになります。

1. C-120テープおよびクローム・テープは使用しないでください。テープのまきつきや、ヘッドの摩耗を早めます。
2. テープを演奏状態のままエンジン・キーを切らないでください。回転むらや、テープの巻き込みの原因になります。
3. カセット・テープを挿入する時は、テープのたるみを直してください。
4. テープの保存はテープが露出しないようにケースに入れ直射日光をさけて保存してください。

たるんだテープの修正方法



ヒーター

温度調整レバー

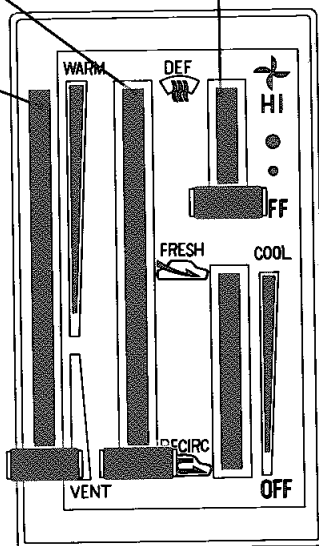
- WARM 室内暖房
- VENT 室内循環

内外切替レバー

- DEF ガラス曇り止め
- FRESH 外気導入
- RECIRC 内気循環

ファン・スイッチ

- HI 強風
- 中風
- 弱風
- OFF 停止

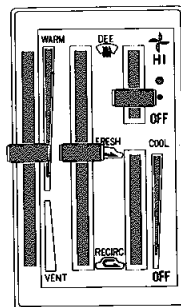


ヒーターは次のような機能をもっています。

- ①ヒーター（暖房用）として
 - ②デフロスタ（曇り止め）として
 - ③ベンチレーション（換気用）として
- スイッチ・レバー操作は、次のようにします。

1. 外気による室内暖房

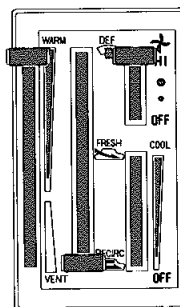
（通常のご使用の場合）



WARMとVENTとの間をもっとも快適な位置に調整してください。

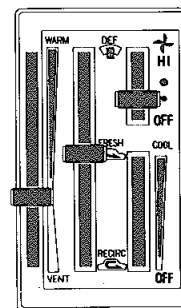
WARMに近づける程、ベンチレーション・ルーバーからの風が強くなります。

2. 内気による室内暖房



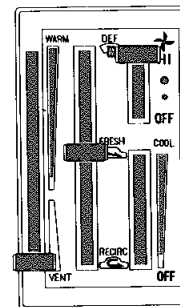
外気をシャット・アウトし、室内空気を暖めて循環させます。窓ガラスが曇ってきたときは外気導入にします。

3. 車内を暖めながら換気する操作



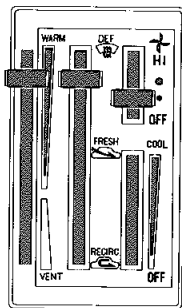
4. 強制ベンチレーション

（夏期ベンチレーション）



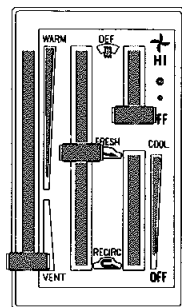
サイド・ベンチレーターも使用すると層効果があります。

5. ガラスの曇りどめ（冬期の場合）



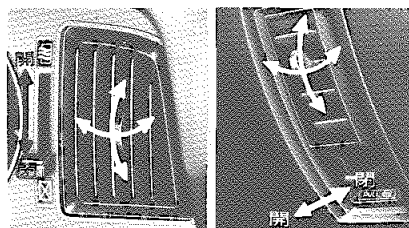
曇り止めのためにはサイド・ガラスを少し開けると、層効果があります。

6. ファン停止でも新鮮な空気が導入できる操作（走行中）



その他

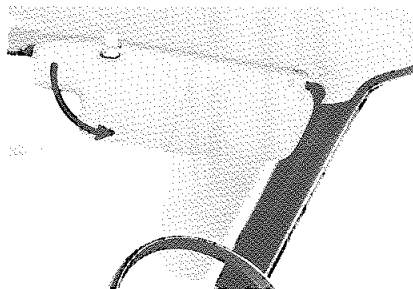
■サイド・ベンチレーター 運転席側 助手席側



車内の空気を入れかえたいときノブを動かして使用します。ベンチレーターから新鮮な空気はいります。

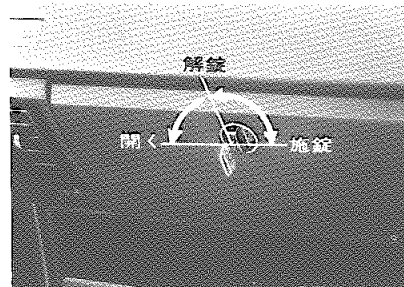
また、中央部のルーバーを動かすことにより風向きも調節できます。

■サン・バイザー



ホルダーからははずすと、横にまわすことができます。

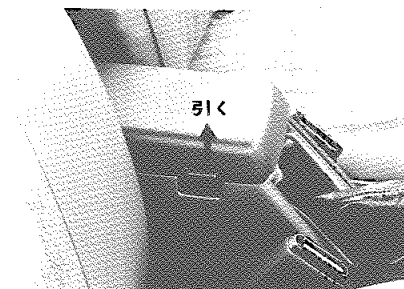
■グローブ・ボックス



キーで解錠して、つまみを左にまわします。またライト・コントロール・スイッチがONのときにふたを開くとボックス内右横のマップ・ランプがつかます。なおグローブ・ボックスの施錠解錠はマスター・キーで行ないます。

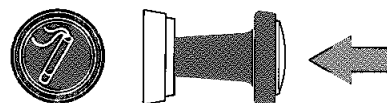
■コンソール・ボックス

ワゴンのフロア・シフト車



運転席側のボタンを上へ引き上げてフタを開けてください。

■シガレット・ライター 除くSTD

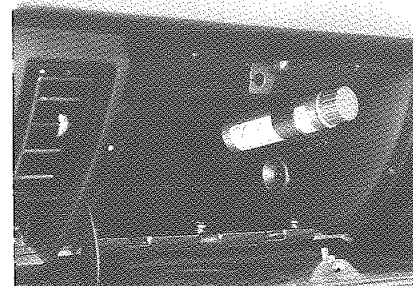


★注意

シガレット・ライターは押しこんだらすぐ手を離してとび出すのを待ちます。

押えつけたまましていると、シガレット・ライターをいためます。

■保安炎筒



踏み切り内での故障など非常事態が発生したときに使用します。

使用法は保安炎筒をよく読んで万に備えてください。

保安炎筒には有効期限があります。有効期間は3年でラベルに明示されていますので確認しておきましょう。

発炎時間は5分間です。

★注意

非常信号用としてのみご使用ください。使用中、筒の先を顔や体に向けたり、近づけたりすると火傷の危険があります。取り扱いには十分注意してください。

また、トンネル内で使用すると視界が悪くなり危険ですので絶対使用しないでください。